

令和七年度入学試験問題(経済学部 経済工学科)

現代の国語
言語文化
論語
国語
学国語

(注意事項)

- 一、問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 二、問題冊子は十ページ、解答紙は二枚あります。「始め」の合図があったらそれぞれを確認すること。
- 三、各解答紙の二箇所を受験番号を記入すること。
- 四、受験番号は、裏面の記入例にならって、マス目の中に丁寧に記入すること。
- 五、解答はすべて解答紙の指定欄に記入すること。
- 六、この教科は、百二十点満点です。経済学部経済工学科については、百五十点満点に換算します。

現代の国語
言語文化
理論
国語学

— 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(60点)

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

(尹雄大『聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき』による。ただし、問題作成の上から本文の一部を改めた。)

問1 傍線部A「そうですね!」と「そうですか?」のあいだを縫うようにした「そうですか!」で応えるようにしている」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問2 傍線部B「どちらも私が引つかかるところは音のズレにおいて共通している」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問3 傍線部C「あなたは」そのように言うこと」によって何が手に入ると思っているのでしょうか」とあるが、筆者はなぜそのような質問をするのか、説明しなさい。

問4 傍線部D「それを手に入れることで失ってしまうものがあるとしたら、それは为什么呢」とあるが、筆者はなぜそのような質問をするのか、説明しなさい。

問5 傍線部E「ここでいう繊細さは、互いに言語に依存したゲームを繰り返すためのものではない」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問6 傍線部F「完全に聞く」とは相手を完璧に理解することではない。わかろうと試みる状態のことだ」とあるが、それはどういうことか、本文の論旨を踏まえて説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(60点)

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

著作権保護の観点から公開しません。

(山下範久「資本主義にとっての有限性と所有の問題」岸政彦・梶谷懐編著『所有とは何か——ヒト・社会・資本主義の根源』による。ただし、問題作成の上から本文の一部を改めた。)

(注) 高温で物が燃えるときに、空気中の窒素(N)と酸素(O₂)が結びついて発生する窒素酸化物の総称。

問 1 傍線部A「有限性の問題」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問 2 傍線部B「人新世」という概念がひろく人文学・社会科学にインパクトを与えている」とあるが、その理由を説明しなさい。

問 3 傍線部C「有限性の壁が突然あらゆる人間にとって不可避なものとして迫りだしてくる」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問 4 傍線部D「人間を人間以外のモノから切り離された存在だと捉える人間観が、人間を無限に開いたというわけだ」とあるが、それはどういうことか、説明しなさい。

問 5 傍線部E「こうした存在論的体制の転換は、さまざまな窓を通して観察することができる」とあるが、ここでいう「存在論的体制の転換」とはどういうことか、本文の例を参考に、具体例を一つ挙げたうえで、説明しなさい。

問 6 傍線部F「決して所有の客体とならない「人間」とあるが、なぜ人間は所有の客体とならないのか、その理由を説明しなさい。

